

授業研究を軸にした教師教育に関する国際共同研究の

プラットフォームづくり（2）

研究代表者 金 鍾成（社会系コース）
研究分担者 吉田 成章（教育学系コース）
岩田昌太郎（健康スポーツ系コース）
川口 広美（社会系コース）

I 研究の目的と背景

1. 研究の目的

本プロジェクトは、広島大学教育学部が2019年度から加盟している International Network of Educational Institutes (INEI)と連携し、教師教育の文脈で授業研究が議論できる国際共同研究のプラットフォームの構築を目指す。令和2年度から令和4年度まで実施される本プロジェクトの具体的な目標は、①令和4年以後に広島大学で開催される INEI 総会で「授業研究を軸にした教師教育」の在り方を海外の研究者らとともに提案すること、②交流の成果を踏まえて『Lesson Study in Teacher Education』という題目の国際共著の書籍を出版することである。究極的には、「日本の授業研究と海外の Lesson Study をつなげる窓口としての広島大学」のイメージを国内外に広げ、広島大学教育学部が授業研究の国際交流のハブとしての役割を果たすことをめざす。授業研究の成果を長年蓄積しており、国際的ネットワークを有する広島大学の「強み」を活かしながら、スーパー・グローバル大学としての広島大学の使命をも果たしていきたい。

（金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美）

2. 研究の背景

TIMSS 調査後の1990年代からPISA ショックを経た2000年代にかけて、日本の授業研究に対する国際的な関心が高まった。2020年までに出版された授業研究に関する書籍・論文が900本を超えるなど（Yoshida, Matsuda, & Miyamoto, 2021）、日本の授業研究は Lesson Study に翻訳され多くの国々に広がっている。しかし、Kim（2021）が指摘するように、日本の授業研究と世界の Lesson Study は同義ではない。日本の授業研究は教員養成・教員研修、授業に関する現象学的研究、カリキュラム研究の側面をも有するが（National Association for the Study of Educational Methods, 2011）、海外の授業研究は教員養成・教員研修の側面に焦点を当てながら各々の文脈に合う形で発展を遂げているのである。このような日本の授業研究と世界の Lesson Study が編み出す多様性は、両者が学び合う必要性を提起する。そこで、本プロジェクトは、両者が共通に関心を寄せる教師教育に着目し、日本の授業研究と海外の Lesson Study が交流できる場、すなわち、国際共同研究のプラットフォームの構築を目指す。

（吉田成章*・金 鍾成・岩田昌太郎・川口広美）

Ⅱ プラットフォームづくりの方法

1. セミナーによるプラットフォームづくり

令和3年度においても授業研究に関するセミナーを継続的に行うことで、「日本の授業研究の発信と世界の「Lesson Study」との交差点を探りながら、授業研究に基づく教師教育について研究できる国際共同研究プラットフォームの構築」（金鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美，2021，p.34）を目指した。令和3年度には、教師教育者の授業研究への関わり方に焦点を当てた。日本の教師教育者の授業研究への関わり方を発信し、海外の教師教育者の「Lesson Study」への関わり方と比較・検討することで、教師教育者の視点から授業研究のネットワークの構築を試みた。広島大学教育ヴィジョン研究センター（Educational Vision Research Institute, EVRI）の支援のもとで行われた『授業研究を研究する』シリーズの詳細は以下の通りである。なお、本報告書提出時点（2022年2月14日）では第9回セミナーは未実施であるが、すべてのセミナーの報告はEVRIのホームページ（<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/>）より閲覧することができる。

【令和2年度のセミナー一覧】

- 第1回：「日本の授業研究を軸にした教師教育の現状と課題」
- 第2回：「国際教育開発の視点からみた授業研究を軸にした教師教育の展望」
- 第3回：「学校内外の授業研究を語る」
- 第4回：「『Lesson Study-based Teacher Education』の編著者との対話」
- 第5回：「新しい授業モデルへの転換に教員養成はどのように応えるのか？」
- 第6回：「異職種協働の視点からみた授業研究を軸にした教師教育の展望」

【令和3年度のセミナー一覧】

- 第7回：「ドイツにおける授業研究と教師教育」
 - ・日にち：2021年6月10日（木）16:30-18:00
 - ・司会：金 鍾成・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美（広島大学）
 - ・話題提供者：Maria Hallitzky・Emi Kinoshita・Christian Herfter・Karla Spendrin・Mamadou Mbaye（Universität Leipzig）
「ドイツにおける授業研究と教師教育」
 - ・指定討論者：サルカール・アラニ・モハメッド・レザ教授（名古屋大学）
- 第8回：「日本の教師教育者は授業研究にどのようにかかわっているか」
 - ・日にち：2021年11月6日（土）14:00-16:00
 - ・司会：金 鍾成（広島大学）
 - ・話題提供者：岩田昌太郎（広島大学）
「教師教育者としての役割の変容—授業研究を通じて教師と関わるということ—」
川口広美（広島大学）
「教師教育者としての悩みと工夫—「知識ある他者」であるということ—」
との葛藤—」

吉田成章（広島大学）

「教師教育者からカリキュラム・デザイナーへーコミュニティー・ベースの授業研究の試みー」

- ・ 指定討論者：齊藤英介（オーストラリア，Monash 大学）
草原和博（広島大学）
的場正美（東海学園大学）

○第 9 回：「異なる専門の研究者が共通フィールド（場）にどのように関わるか」

- ・ 日にち：2022 年 1 月 29 日（土）14:00-16:00
- ・ 司会：金 鍾成（広島大学）
- ・ 話題提供者：岩田昌太郎（広島大学）
「体育科教育学と教師教育者の視点から見る」
川口広美（広島大学）
「社会科教育学とシティズンシップ教育の視点から見る」
吉田成章（広島大学）
「地域と協働する学校カリキュラムの視点から見る」
- ・ 指定討論者：鹿毛雅治（慶應義塾大学）
山住勝広（関西大学）

○第 10 回：「イギリスの授業研究の研究者から学ぶーWasył Cajkler 先生ー」

- ・ 日にち：2022 年 2 月 19 日（土）18:00-20:00
- ・ 司会：金 鍾成（広島大学）
- ・ 話題提供者：Wasył Cajkler（University of Leicester）
「Lesson Study in Initial Teacher Education: Principles and Practices」
- ・ 指定討論者：川口広美（広島大学）

○第 11 回：「オーストリアの授業研究の研究者から学ぶーClaudia Mewald 先生ー」

- ・ 日にち：2022 年 2 月 26 日（土）18:00-20:00
- ・ 司会：金 鍾成（広島大学）
- ・ 話題提供者：Claudia Mewald（University College of Teacher Education in Lower Austria）
「Lesson Study: The Handbook for Collaborative Lesson Development」
- ・ 指定討論者：吉田成章・宮本勇一（広島大学）

○第 12 回：「韓国の授業研究・授業批評の研究者から学ぶーHyugKyu Lee 先生ー」

- ・ 日にち：2022 年 3 月 19 日（土）13:00-15:00
- ・ 司会：金 鍾成（広島大学）
- ・ 話題提供者：HyugKyu Lee（Cheongju National University of Education）
「수업, 비평의 눈으로 읽다（授業，批評の目で読む）」
- ・ 指定討論者：金 鍾成（広島大学）
(金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

2. 授業研究に関する国際シンポジウムの開催

令和3年度には、セミナーから得られた学問的成果を世界に発信すること、またこれまで構築してきたネットワークを生かした新たな知を創造することを目指し、授業研究に関する国際シンポジウムを開催した。具体的には、2021年度に開かれた World Association of Lesson Studies (WALS) の年次大会における国際シンポジウムと、世界の主な教員養成機関のネットワークである International Network of Educational Institutes (INEI) の研究者・大学院生を対象とした Peace Education and Lesson Study for Teacher Educator (PELSTE) 2022 『Localizing Lesson Study: The Cases of America, Brazil and India』を EVRI とともに開催した。詳細は、以下の通りである。

○World Association of Lesson Studies (WALS) の2021年度の年次大会における国際シンポジウム

- ・日にち：2021年11月29（月）11:00-12:30
- ・シンポジウム・チェアー：金 鍾成（広島大学）
- ・話題提供者：岩田昌太郎（広島大学）
 - 「Expanding the role of a teacher educator in lesson study: A case of a physical education teacher educator」
川口広美（広島大学）
 - 「The struggle of ‘knowledgeable other’: Examining the role of a university-based teacher educator in lesson study」
吉田成章（広島大学）
 - 「From teacher educator to community-based curriculum designer」
- ・指定討論者：Christine Lee（National Institute of Education, Singapore）

○Peace Education and Lesson Study for Teacher Educator (PELSTE) 2022 『Localizing Lesson Study: The Cases of America, Brazil and India』

- ・日にち：2022年2月5日（土）22:00-24:00
- ・司会：金 鍾成（広島大学）
- ・趣旨説明：草原和博（EVRI 長，広島大学）・金 鍾成（広島大学）
- ・話題提供者：Agnaldo Arroio（University of São Paulo, Brazil）
 - 「The case of Brazil」
Indira Subramanian（National Institute of Education, Singapore）
 - 「The case of India」
Kaycee Rogers（University of Wisconsin-Madison, USA）
 - 「The case of America」
- ・指定討論者：Catherine Lewis（Mills University, USA）
Christine Lee（National Institute of Education, Singapore）
- ・まとめ：松見法男（教育学部長，広島大学）
(金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

3. 海外の授業研究プロジェクトの支援によるプラットフォームづくり

広島大学の豊富な授業研究に関する知識と経験を生かし海外における授業研究プロジェクトの支援に取り組むことで、日本の授業研究と海外の Lesson Study が交流できる場としてのプラットフォームづくりを試みた。詳細は以下の通りである。

○インドの授業研究プロジェクトの支援

- ・ 支援時期：2021 年 6 月から 2022 年 1 月まで計 3 回（1 回に 2 時間）
- ・ 支援方法：Google Meeting を使ったオンライン支援
- ・ 支援内容：Indira Subramanian 氏が組織・運営するインドの授業研究グループと「授業研究とは何で、なぜ、どのように行うか」をめぐる議論を行った。主に、インドの授業研究グループが授業研究を行っていく中で出てきた疑問点に対し、広島大学の支援チーム（金・吉田・岩田・川口）が答え、また新たな論点を提供する形で進められた。

○ブラジルの授業研究プロジェクトの支援

- ・ 支援時期：2021 年 6 月から 2021 年 12 月まで計 2 回（1 回に 2 時間）
- ・ 支援方法：Zoom を使ったオンライン支援
- ・ 支援内容：Aginaldo Arroio 氏に関わっているブラジルの理科教員養成コースと小学校教員の専門性開発プログラムにおいて授業研究をどのように導入・運営すれば良いかについて話し合った。特に金は、ゲストスピーカーとして参加し、授業研究の核となるアイデアを守りながら文脈に合わせて授業研究の形を調整する必要性について説明した。

○米国の授業研究プロジェクトの支援

- ・ 支援時期：2021 年 12 月中
- ・ 支援方法：対面
- ・ 支援内容：2 年目を迎えるカリフォルニア州グランドラ学校区の授業研究チームのこれまでの取り組みを振り返り、今後の計画について話し合った。授業研究を導入したリーダーがいなくなると授業研究そのものもなくなる傾向に対し、自律的で継続的な運営に必要な条件について議論した。

○韓国における授業研究ネットワークづくり

- ・ 支援時期：2021 年 9 月から 2021 年 10 月まで
- ・ 支援方法：対面
- ・ 支援内容：授業研究に関心をよせる韓国の教員、管理職、教師教育者と繋がり、今後の韓国における授業研究の可能性を探った。いくつかのソウル市内の小学校とソウル教育大学の構成員を中心に、授業研究を本格的に導入するために必要な条件について話し合い、関連事項の調査を行った。

（金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美）

Ⅲ プラットフォーム形成の実際

1. セミナーによるプラットフォームづくり

2021年6月10日（木）に開催された『授業研究を研究する』（7）「ドイツにおける授業研究と教師教育」では、73名が集まり日本の授業研究とドイツの Lesson Study を比較・検討した。2021年11月6日（土）に開催された『授業研究を研究する』（8）「日本の教師教育者は授業研究にどのようにかかわっているか」では、85名が参加し日本の教師教育者の授業研究への関わり方を議論した。2022年1月29日（土）に開催された『授業研究を研究する』（9）「異なる専門の研究者が共通フィールド（場）にどのように関わるか」では、86名が集まり異なる背景を持つ教師教育者の授業研究への関わり方の共通点・相違点について議論した。

上記のセミナーを開催することで得られた成果は、主に二つである。一つは、日本の授業研究と海外の Lesson Study を比較・検討することで、授業研究／Lesson Study をとりまく文脈を相対化し、改善の方向性を考えるきっかけを提供できたことである。もう一つは、これまで注目されてこなかった授業研究への教師教育者の関わり方について日本のなかの研究者とともに話し合う場を提供できたことである。

続く『授業研究を研究する』（10）「イギリスの授業研究の研究者から学ぶ—Wasył Cajkler 先生—」、『授業研究を研究する』（11）「オーストリアの授業研究の研究者から学ぶ—Claudia Mewald 先生—」、『授業研究を研究する』（12）「韓国の授業研究・授業批評の研究者から学ぶ—HyugKyu Lee 先生—」でも、イギリス、オーストリア、韓国の授業研究の研究者の話を鏡に、さらなる相対化と改善の方向性の検討を行っていきたい。

（金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美）

2. 授業研究に関する国際シンポジウムの開催

WALS の 2021 年度の年次大会における国際シンポジウムには、65 名が集まり「授業研究における knowledgeable others は、何に関して knowledgeable なのか。提供する knowledge とは何か」について議論した。PELSTE 2022『Localizing Lesson Study: The Cases of America, Brazil and India』には、92 名が参加し日本の授業研究を海外で導入することの価値とその際に直面する難しさについて話し合った。

上記の授業研究に関する国際シンポジウムを開催することで得られた成果は、主に二つである。一つは、授業研究に関する特定の概念（例えば、教師教育者（knowledgeable others）やローカライゼーション）を中心に、これまでの研究成果をまとめて発表し、海外の研究者と交流できたことである。そうすることで、既存の授業研究のネットワークをより広げることができた。もう一つは、授業研究に関する国際シンポジウムの成果を学術誌、または機関の論文集としてまとめる計画が進んでいることである。WALS の 2021 年度の年次大会の成果は、指定討論者であった Christine Lee 氏と協力し、International Journal for Learning and Lesson Studies（SSCI）の特集号として掲載する予定である。また、PELSTE 2022『Localizing Lesson Study: The Cases of America, Brazil and India』の成果は、まもなく EVRI 叢書として出版される予定である。

（金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美）

3. 海外の授業研究プロジェクトの支援によるプラットフォームづくり

コロナの影響で、現地で授業研究プロジェクトを支援する機会はあまりなかったものの、オンラインを介することでより気軽に授業研究に関する悩みを話し合う体制を構築することができた。特に、インドの授業研究プロジェクトがそうであった。インドの場合、授業研究を導入する教師教育者だけではなく、授業研究に実際に参加するメンバーも一緒に広島大学の構成員との話し合いに参加した。自らが持っていた授業研究に関する疑問を出し合うなかで、支援を受ける側と支援する側の区がなくなり、一つのチームとなった。今後のインドにおける授業研究プロジェクトを行う際に協力者を確保できた点で授業研究に関するプラットフォームを構築できたといえる。

また、これまで支援してきた授業研究プロジェクトへの支援や新たに授業研究の導入を検討している教師教育者への支援も行った。米国のカリフォルニア州グランドラ学校区の研究チームとは、これまでの授業研究の成果を持続可能なものにするための方略について検討した。授業研究のリーダーが今年で退職することにより、今後の見通しが不透明になった時点であったため、どうすればせつかく形成された授業研究の体制を維持できるかを議論した。韓国では新たに授業研究を導入しようとするソウル市内の複数の小学校を訪れ、学校の文化、教員や管理職のニーズなどを調査した。その結果を踏まえて、ソウル教育大学の研究者とともにどのように支援することができるかを議論した。このように既存のプロジェクトと新規のプロジェクトを同時に支援することで、授業研究に関するプラットフォームの拡張可能性を担保するために努力した。

(金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

IV 研究の成果と今後の課題

コロナの影響によってこれまでとは異なる交流が求められる中、複数回のオンラインセミナーや国際シンポジウムの開催、また複数回にわたる海外の授業研究プロジェクトのオンライン・対面の支援は、授業研究の国際共同研究のプラットフォームの構築を可能にした。これらの授業研究の国際共同研究のプラットフォームが交流の場にとどまらず、学術誌の特別号への掲載や機関の論文集として出版され始めたのは、前年度の共同研究より一歩進んだ証だといえよう。

今後は、国際共同研究のプラットフォームの拡張を図りつつ、その内実化も同時に追求する必要がある。具体的には、これまで形成してきた授業研究のネットワークを生かし、日本の授業研究の研究者と海外の Lesson Study の研究者がある主題についてともに研究する機会を創造する。冒頭で述べた授業研究に焦点を当てた INEI 総会におけるシンポジウムやその成果を踏まえた『Lesson Study in Teacher Education』という題目の国際共著の書籍の出版を視野に入れながら、授業研究を教師教育の視点からとらえ直すための国際共同研究プロジェクトを立ち上げることが望ましい。

最後に、授業研究の新たなトレンドにも注目したい。授業研究に関する交流や支援だけではなく、各地の授業研究そのものもオンラインで行われる傾向にあった。そこで、来年度には、既存の対面の授業研究とは異なるオンライン授業研究の特徴を調査し、オンライン授業研究の在り方を検討する国際共同研究プロジェクトを立ち上げることとする。

(金 鍾成*・吉田成章・岩田昌太郎・川口広美)

引用文献

- Kim, J. (2021). Through foreign eyes: A critical understanding of Lesson Study-based teacher education in Japan. In J. Kim, N. Yoshida, S. Iwata, & H. Kawaguchi (Eds.), *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings* (pp. 9-28). New York, NY: Routledge.
- Kim, J., Yoshida, N., Iwata, S., & Kawaguchi, H. (Eds.). (2021). *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings*. New York, NY: Routledge.
- National Association for the Study of Educational Methods (Ed.). (2011). *Lesson study in Japan. Hiroshima*, Japan: Keisuisha.
- Yoshida, N., Matsuda, M. & Miyamoto, Y. (2021). The landscape of lesson study. A methodology for teachers' professional development and educational research. In J. Kim, N. Yoshida, S. Iwata, & H. Kawaguchi (Eds.), *Lesson study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings* (pp. 29-50). New York, NY: Routledge.